

宇都宮市立桜小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をした児童が7割を超えた。前年の同様の調査の割合よりも増えてきている。今後も、学校生活全体を通して、自己肯定感が高められるような活動を充実させていきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的な回答をした児童の割合が8割を超えている。今後も、総合的な学習の時間などを通して、キャリア教育の実践を継続していきたい。

○「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的な回答をした児童が95%を超えている。今後も、食育、健康教育の充実を図り、100%を目指して指導や活動を継続して実施していきたい。

○国語や算数の学習が、「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が9割を超え、それぞれ県や国を上回る傾向が見られた。今後も、少人数指導の充実や主体的な学びを継続していきたい。

○「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が8割を超え、算数だけでなく他の教科でも、授業中に熱心にまとめる姿が見られている。

●「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をした児童の割合が8割を超えているが、県や国を下回っている。学級活動等の時間での指導だけでなく、学校生活全体を通して、児童がより主体的にきまりやルールに関して考え実践できるようにしていきたい。

●「毎日、同じくらの時刻に起きていますか」に対しては、肯定的な回答をした児童の割合が県や国の割合を下回っている。保健の時間や家庭科の時間の学習と関連させながら、指導を充実させていきたい。

●地域や社会への関心はあるが、実際に新聞を読んだり、地域の行事に参加したり、ボランティア活動に参加した児童の割合は県や国より低くなっている。教科の学習の中で、新聞等を活用したり、地域の行事等を紹介したりする時間も充実させていきたい。

宇都宮市立桜小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
つかむ、学び合う、まとめ、振り返るを活用した学びのスタイル「さくらの学び」の充実	すべての学級に学びのサイクルを掲示し、授業で継続実施している。振り返りに重点を置き、ポイントも明示しノート等に書く時間を設けている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対して、約7割の児童が肯定的な回答をしている。「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」に対して肯定的な回答をした割合は7割程度である。
家庭学習の定着に向けた指導の工夫	年2回の「学習がんばり週間」を実施し、家庭と連携して望ましい家庭学習の習慣作りに努めている。「自主学習のやり方」「自主学習記録表」も学年の発達段階に応じて活用を始めた。	「家で自分で計画を立てて勉強していますか」「している」と回答した児童の割合が5割強である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年生の質問紙から、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した児童の割合が県や全国の平均を上回っていた。授業の中でも自分の考えを伝えたり、書いたりするのが苦手な傾向が見られる。	子どもたちの考えを効果的につなげたり、深めたりするための対話的・協働的な活動の充実	ペアやグループなどの学習形態を工夫して、課題の解決に向けて互いにアドバイスや助言し合う場を設定し、対話的・協働的に解決し合うことができるようにする。